

令和7年度総合計画施策評価シート(令和6年度実施分)

基本姿勢1 安心で魅力ある「定住のしま」 ～分野2 人を大切に、人を守るまちづくり～	
政策1 健康を守りつくる保健・医療の地域づくり	本文P42～43

基本方針	住民が健康で安心した生活ができるよう生活の質の向上を目指すとともに、保健サービスや相談機能の充実を図り、住民のニーズに対応した地域医療環境の充実に取り組みます。
------	--

1-2-1-① 健康を守りつくる環境づくり	担当課	健康保険課
-----------------------	-----	-------

1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	<p>○「新上五島町健康づくり計画」を基に、生活習慣病の予防を図るため、食生活改善推進員や健康づくり推進員と協力し「健康まつり」や「健康ウォーク」などのイベントを開催し、地域での健康づくり活動を担うボランティア等の育成と活動を促進した。</p> <p>○町民一人一人の健康への自覚を高めるため、長崎県が行う「ICTを活用した特定健診受診率向上対策事業」に参画し、データ分析を活用し意識変容にアプローチする受診勧奨通知を行った。</p> <p>○健康を増進し、発症を予防する「一次予防」を目的に医療機関の協力を得て、若年層(30代)からの夜間・休日健診の実施し、受診率向上を図った。</p>	
SDGsとの関係性	 	<p>【選定理由】</p> <p>県や上五島保健所、関係医療機関と連携し、病気の早期発見・重症化予防を目指す取組みを図り、糖尿病等の生活習慣病の有病者及びその予備群を減少させる</p>
評価(問題点とその要因)	<p>○地域での活動を担う食生活改善推進員は、郷土料理の承継や積極的な食育活動などにより郷土料理の推進は図れている。健康づくり推進員は、イベント開催に併せて地域で行えるウォーキングコースの発掘など行っている。両者とも、高齢化や若い世代の新規加入者どう増やしていくかが課題となっている。</p> <p>○長崎県の「ICTを活用した特定健診受診率向上対策事業」において、前年度結果の課題であった連続受診者の増加について成果を上げることができた。また、受診勧奨強化により受診率向上を達成することができた。</p> <p>○健康マイレージ事業は広報誌やイベント等を通じて周知を行い、長崎県の健康づくりアプリ「歩こ〜で!」との「ポイント交換」の仕組みづくりを確立し、健康づくりへの意識向上のきっかけに繋がった。</p>	
今後の取組方針	<p>○食生活改善推進員や健康づくり推進員の地域枠の見直しや、新規加入者勧誘のための活動への取り組みを協議し、新規推進員獲得を図るとともに、「第3次健康づくり計画」をもとに「特定健診」と「健康づくり」の習慣化を図る。</p> <p>○長崎県「ICTを活用した特定健診受診率向上対策事業」と推進員の協力を得ながら受診勧奨に努め、更なる受診率向上を図る。また、県の事業としては最終年度となるため、町単独での導入についても検討する。</p> <p>○健康マイレージ事業は、長崎県が取り組む健康づくりアプリ「歩こ〜で!」とひきつづき連携し、事業の相乗効果向上と健康づくりへの意識向上を図るため、健康マイレージの普及啓発、活用促進に取り組む。</p>	

2-1. 重要業績評価指標(KPI)評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

No.	指標名	指標の内容	単位	H30基準値	実績値の推移					達成率	
					R2	R3	R4	R5	R6		
1 ★ まち・ひと	国民健康保険加入者の特定健康診査受診率	特定健康診査受診者数 ÷ 国民健康保険加入者数	%	42.2	44.1	44.7	45.3	45.9	46.5	0.0%	
					33.3	34.1	33.1	39.0	40.5		
	《成果指標の進捗状況》					担当課	健康保険課			R2	
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										C
	①取組状況、結果、分析 ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	(1) 集団・個別の受診者数割合【国民健康保険加入者数 令和7年3月末時点4,413人】※()は、R5の実績 全体：対象者数3,558人(3,743人)、受診者数1,422人(1,458人) 集団健診受診率21.30%(23.49%)、個別健診受診率78.70%(76.51%) ※実績値40.0%は6月末の実績(確定は11月)										C
	(2) 受診機会の拡大 ①特定健診の受診者に占める夜間・休日健診の受診者の割合 夜間 3.4%(2.8%)、休日 0.8%(9.3%) ②SNS(LINE)を活用した集団健診・がん検診予約の実施 集団健診予約者数438(398)件のうち118(67)件がLINEでの予約26.94(16.8)%										
	【分析結果】令和5年度よりも受診率は向上したが目標値には達成できなかった。長崎県の「ICTを活用した特定健診受診率向上対策事業」により、前年度課題となった40代50代の年代を対象に連続受診勧奨の成果が得られた。また、計画年度途中コロナ禍により受診控えが目標値低下の要因の一つとなった。										R4
	・残された課題、KPI達成のため必要な取組み										C
	①課題										R5
○受診率の向上(目標)を図る取組みは、町民の「早期発見、早期治療」のための受診(目的)を促した成果指標である。 ○様々な取組みが、「早期治療」に繋がるよう、「楽しみながら」「健康づくり」ができる仕組みづくりが必要である。										C	
②必要な取組み ※達成の場合はさらなる効果を生むための取組みを記載										R6	
○「第3次健康づくり計画(概要版)」をもとに、地域や事業所などを訪問し、健康講話から町民の健康に関する生活習慣の改善とその定着を図る。 ○長崎県の「ICTを活用した特定健診受診率向上対策事業」を継続し、成果が得られた連続受診者の定着化を図る。また、新規受診者の掘り起こしや通院中の未受診者の獲得および不定期受診者の連続受診勧奨を図る。										C	

1. 基本施策(主要施策) 1次評価

<p>これまでの取組</p>	<p>○平成23年度から医師確保対策特別補助事業(臨床研修医支度助成金支給)を実施しており、上五島病院で臨床研修を行う医師に対し、赴任時の必要経費等について助成を行うことで、常勤医師の確保に繋げよう取り組んだ。令和6年度までに13名への助成を行っている。</p> <p>○令和2年4月から、長崎県病院企業団を運営主体として、RIMCAS事業(離島等医療連携ヘリ)により本土と上五島病院間で医師搬送を行い、医療従事者の確保を図るとともに急性期医療を終えた患者の下り搬送も行うことで、上五島病院への転院に係る患者の身体的、経済的負担の軽減を図り、医療提供体制の充実に努めている。</p> <p>○上五島病院への入院患者の付き添いに係る通院交通費について、医師からの付き添い許可を認められたものを入院介護者等交通費助成事業の対象者として助成を行い、経済的負担の軽減を図っている。</p> <p>○分娩体制確保事業では、長崎県病院企業団と連携して長崎大学の支援を受けながら、新上五島町のしまの周産期医療に携わる医師の研究費等人材育成・確保に努めてきた。</p>
<p>SDGsとの関係性</p>	<div style="display: flex; align-items: center;">   </div> <p>【選定理由】</p> <p>医療サービスの向上と医療体制の充実に資することを目的とし、長崎県や長崎県病院企業団と連携し、都市部と変わらない医療の提供を図り、持続可能な医療環境整備を目指す。</p>
<p>評価(問題点とその要因)</p>	<p>○医師確保対策特別補助事業については、これまで13名の事業実績がある。県や関係病院と連携し、医師をはじめ医療従事者の確保に必要な協議を継続して行う必要がある。また、全国的な人材不足を背景に新たな取組みについて、上五島保健所が管轄する地域医療構想調整会議の中で慎重に協議を進める必要がある。</p> <p>○上五島病院の専門診療科における診療時間は、RIMCAS事業により、より多くの患者の診療に繋がっている。</p> <p>○入院介護者等交通費助成事業については、遠方地区の介護者の経済的負担の軽減が図られている。</p> <p>○分娩体制確保事業については、産科医1.5人体制の医師の確保により一定の評価はできるものの「県外からの里帰り分娩」の再開が果たせなかった。また、新たに助産師不足が要因となり、正常分娩が可能な妊産婦までも島外での分娩をせざるを得ない状況となった。</p> <p>○町内の医療関係者との協議会において、地域の健康課題である糖尿病の現状を共有し、糖尿病予備軍患者への支援をいただき医療の充実を図った。つまりは、地域医療体制の充実を図るうえで、安定した診療所運営は大きな役割を担っている。</p>
<p>今後の取組方針</p>	<p>○医師確保対策特別補助事業は、関係病院と連携し、医師をはじめ医療従事者の確保に必要な協議を継続して行う。</p> <p>○入院介護者等交通費助成事業は基幹病院から遠方地区に住む介護者の現状と実績を考慮し、継続する。</p> <p>○島内での分娩が休止となっても、上五島病院においては「婦人科」の標榜は掲げるため、ひきつづき、産婦人科医の確保について病院企業団と協議を続ける。また、医療スタッフの確保は一市町での解決は困難であるため、今後県への要望を通じて国の政策に繋がるよう努める。</p> <p>○地域医療の充実を図るには、医療ICTの導入も検討していく必要がある。長崎県が新たに設置する「長崎県離島診療所ICT等普及協議会」の委嘱を受け、医療ICT導入について協議を図っていく。</p> <p>○新魚目診療所は地域医療を確保することを目的に建て替え計画を進め、令和10年開院を目指す。</p>

2. 重要業績評価指標(KPI)評価

設定なし

2次評価委員会からの評価・意見等

「新上五島町健康づくり計画」を基本に「住民が主体となり 地域で支え合う健康づくり」の実現に社会の動向を注視しながら様々な施策を通して取り組む必要がある。地域医療環境の充実については現状や課題について国県や病院企業団らと共有を図り、その解決に向けて必要に応じて各種支援や連携を図り地域医療の維持・充実に努める必要がある。